

燃料タンクの運用下限に関する考え方

基地名	日本海エル・エヌ・ジー(株) 新潟基地	東北電力(株) 新仙台基地
燃料	LNG	LNG
貯蔵設備容量	720,000kl	320,000kl
発電ユニット	仙台火力発電所 4 号機 東新潟火力発電所 1・2 号機 〃 3・4 号系列 新潟火力発電所 5 号機	新仙台火力発電所 3 号系列
運用下限※の考え方	- 物理下限に、荒天影響による LNG 船入港遅延リスク（※）にあたる上記発電ユニットの冬季 LNG 消費相当量を加算。 （※） 冬季以外：2 日 冬季（12～2 月）：5 日 - 気象海象予測や船舶動静等により、更なる入港遅延が顕在化した場合は、適切に考慮する。	設定なし（運用下限＝物理下限）

※ 入船遅延等、必要なリスクへの対応を考慮して運用上確保している数量

【燃料ガイドライン（抜粋）】

4. 燃料確保にあたって望ましい行動

（2）燃料確保にあたって発電事業者に望まれる行動

① タンク運用・在庫にあたって望まれる行動

「（前略）また、タンクの運用にあたって、各事業者は、一定のリスクを考慮し運用上限・下限を設定している。このような各社が置かれる事情を考慮した上で、自ら考え方を整理する形は適切である一方で、今後、国や広域機関において、燃料ひっ迫を予防する取組を行うにあたっては、各社における運用下限からの余力を踏まえてひっ迫状況を判断していくこととなる。そのため、運用下限についての考え方を整理することが必要であり、本ガイドラインにおいて、運用下限は、燃料制約発動ラインと一致するものであり、物理的下限に加え、入船遅延等、必要なリスクへの対応分を確保したものとする。なお、各社における運用下限の考え方については、透明性を担保するため、対外的に公表されることが望ましい。」